

キリストがすべて

東京基督教大学 大学報 Vol.175 December 2024



[TOPICS] 篠原基章 新学長インタビュー

「Stand in the Gap 破れ口にキリストの平和を」



[TOPICS] 篠原基章 新学長インタビュー

Stand in the Gap 破れ口にキリストの平和を

2024年8月1日、東京基督教大学(TCU)の第7代学長に篠原基章教授が就任しました。

篠原学長は初のTCU卒業生の学長となりました。大学運営の難しい舵取りが求められる今、TCUがなすべきこと、めざすこと、教会と社会に仕えるために担うべき責任は何か。篠原学長に聞きました。

Q.TCUは神学校でもあり大学でもある神学大学ですが、なぜTCUは神学大学であり続ける必要があるのでしょうか？

神学大学とは、教会の使命に仕えようと共に、教会が置かれている社会に仕えていくための学び舎だといえます。「神学校+a」ともいえます。神学校の主要な目的は教会教職者養成ですが、TCUは教会教職者養成と共に、キリストの使節として傷んだ世界に仕えていく働き人の育成を大切にしてきました。

先日、第四回ローザンヌ世界宣教会議が韓国で開催されましたが、そこで「99%」という表現が用いられました。この99%は教会における信徒の割合を意味しています。全体の割合で考えると、教職者が1%で信徒が99%だということを示しています。99%の信徒がキリストの弟子として、それぞれの生活と職場においてキリストを証しすることがどれほど大きな宣教的な意味があるかと改めて問われました。

2025年度から学科名を「総合神学科」から「神学・国際教養学科」に変更します。この変更はTCUが行っている教育をよりわかり易く伝えるための取り組みです。「神学・国際教養学科」では二つのW、「Word(聖書)」と「World(世界)」を両輪として学んでいくことをめざします。聖書(神学)を学ぶことで、世界の様々な問題をどう考えていけばよいのかが見えてきます。逆に、世界について学ぶことで、神学(教会)が何を問われているかに気づかされていきます。

ですから、「神学・国際教養学科」の「・」にはクロス(かける)の意味が込められています。「Stand in the Gap 破れ口にキリストの平和を」を、より一層教育に落とし込んでいき、傷んだ世界にキリストの奉仕者を送りだしていくことが神学大学であるTCUの使命だと考えています。

Q.篠原学長はTCU卒業生ですが、学長が学生時代のTCUと今のTCUで変わったこと、変わっていないことはどんなことでしょうか？

変わっていないことは、「献身の思い」と「宣教への情熱」だと思います。開学から現在に至るまでTCUは「献身の思い」を何よりも大切に

してきました。また、教会教職者になることだけでなく、すべてのキリスト者が献身者であるという理解も変わっていません。その理解を深めてきた35年の歩みだったと思っています。

また、信仰と学問を統合していくキリスト教リベラルアーツ教育も変わらないことの一つです。キリスト教リベラルアーツ教育は、その人の人生の軸を形成する学びだと考えています。キリスト教世界観を土台として物事を考えていく力は、何かを判断していくための知的基盤となります。この知的基盤はどのようなキャリアに進むとしても大きな力になるでしょう。

変わった部分は、TCUがよりグローバルな共同体になったということです。23年前にACTS-ESとして始まった英語トラックは、現在のE-Trackとして継承されています。今や4分の1が留学生という環境になりました。TCUがグローバルな共同体なのは、何もグローバルな時代だからということではなく、それがそもそもの教会のアイデンティティだからだと考えています。福音は、人種、国籍、文化、言語という隔ての壁を超えた共同体を生み出すからです。

また、キリスト教福祉の理解も深まったと考えています。包括的な福音理解は、包括的な宣教の実践へと私たちを促します。キリスト教福祉はまさに包括的な宣教の実践です。これからの時代は、多くの福祉の働き人を必要としています。福音と福祉を一体として捉え、さまざまな福祉の現場で仕えている卒業生たちを誇りに思っています。

Q.TCUは日本でも最小規模の大学です。少子化でどの大学も学生募集が厳しい中ですが、TCUの魅力はどこにあるのでしょうか？

TCUの大きな魅力は、変わることもない普遍的な学びを提供していることだと思います。人は意味を問う存在です。例えば、「自分は何のために生きているのか」、あるいは「世界は何のために存在しているのか」などです。TCUでは神の言葉である聖書をしっかりと学び、聖書に根ざしたキリスト教世界観を土台として人生の様々な問い、また世界の様々な問題と向き合うことができます。このような学びは一生ものです。その人の思想と人格を形成する学びだからです。

また、TCUの魅力は、安心して悩み考えることができる環境にあると考えています。寮生活はやはり大きいと思います。仲間と24時間一緒に生活することで、お互いが自然と磨かれていきます。学生たちを見ていると寮生活はやはり楽しいのだと思います。「青春しているな!」と思うことがよくあります。『僕のヒーローアカデミア』というアニメで「どんな青春時代を送るかで、人生は大きく左右される」というセリフがありましたが、まさにTCUの寮生活ではその人の一生に大きな影響を与える素晴らしい経験をすることが出来ます。TCUの仲間は生涯の友となります。

そして、「キリスト者の自由」がTCUの共同体の核を形成していると感じています。キリスト者の自由は「寮の精神」として記されているものでもあります。ルターが、「キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な君主であって、何人にも従属しない。キリスト者はすべてのものに奉仕する僕であって、何人にも従属する」(『キリスト者の自由』)と書いたように、キリスト者の自由とは、キリストに倣って喜んで自ら人に仕える自由を意味しています。例えば、TCUの寮は学生主体の自主寮ですが、寮運営委員会の学生たちは自ら立候補して委員になります。TCUは自主的にお互いに仕え合う共同体です。仕えること(ディアコニア)が大切なのは、それがキリストの愛であり、福音の表れだからです。

TCUは、この世の価値観に左右されない教育機関です。そこに魅力を感じ、成長できる自分を描くことができるから、今なお入学者が起こされているのだと思います。

Q.卒業生たちはどのように教会と社会に影響を与えてきたのでしょうか?

教会に多くの働き人を送り出し続けてきたことは、TCUの大きな貢献だと思っています。これまで1200人を超える卒業生をTCUは輩出してきました。前身校を合わせると2800人を超えます。卒業生の多くが中堅の教会教職者となり、教団・教派のリーダーシップを担っている卒業生もいます。学生時代のネットワークがあるので、宣教協力が自然にできます。TCUで培われたネットワークが、日本宣教のための一つのインフラとして用いられていくことを願っています。

また、社会において様々な領域に卒業生を送り出してきました。キリスト教団体、一般企業、福祉施設、教育機関、出版、国際NGO、公務員、クリエイティブな分野などなど。また、社会の痛みに応える働きを先駆的に担っている卒業生たちもいます。福祉や教育など直接的に人に仕える仕事に就く卒業生が多いのもTCUの特徴だと思います。近年はYMCAとの関係性も深まっています。YMCAは日本全国に福祉事業や教育事業をキリスト教理念で展開している団体です。去る10月28日には、茨城、千葉、埼玉、とちぎ、横浜、東京の6地区のYMCAがTCUで合同就職説明会を開催しました。印西市内のこども園でのインターンシップや就職なども増えています。TCUの学生を採用したいとよく言っていただけになりました。

人に仕える仕事は一見地味ですが、とても大事な仕事です。マザー・テレサは「半径5メートル以内の人のことを大切にしていこう」ことの大切さを説き、その働きは多くの人に影響を与えました。目の前の人に仕えることが世界を変えることになるのだと私も信じています。

卒業生の働きを紹介するYouTubeチャンネル「あのTCU卒業生はいま?」も始まりましたのでぜひご覧ください。(8ページ参照)



篠原基章 プロフィール

東京基督教大学神学部国際キリスト教学科卒業。日本国際飢餓対策機構(ハンガーゼロ)の働きを経て、共立基督教研究所共立研修センター、米国・カルヴィン神学校修士課程組織神学専攻(Th.M.)、トリニティー神学大学院博士課程宣教学専攻(Ph.D.)を修了。専門は宣教学。現在、東京基督教大学教授。「宣教学」、「現代における宣教と教会」、「キリスト教と文化」、「異文化理解」、「平和学」などの授業を担当。〔著作〕「宣教と教会—20世紀の宣教思想史を踏まえて—」(『福音と世界』12月号、2015年)、「宣教の神学から考える神学教育—序論的考察—」(『福音主義神学』第50号、2019年)など。〔監訳〕ティモシー・ケラー『センターチャーチ』(いのちのことば社、2022年)。日本福音同盟(JEA)神学委員会 委員(2023年3月まで)、日本国際飢餓対策機構 理事、日本ローザンヌ委員会 委員、ATA/J(日本地区アジア神学協議会)書記、日本宣教会『宣教学ジャーナル』編集委員

Q.日本社会が急激に変化していく中で、TCUの今後の展望は?

日本社会の急激な変化は、地域に外国の方々がいるのが当たり前の社会になっているということです。最新のデータによると、日本に在留する外国人は340万人を超えました。現在、日本社会において外国人との共生社会の実現に向けた取り組みがなされています。TCUの強みは、グローバルな教育環境、またグローバルな共同体をすでにもっていることにあります。TCUは日本語トラックでも英語トラックでも学生を受け入れることができます。ぜひ在日外国人の子弟の方々にもTCUに入学してほしいと思っています。TCUで共に学ぶことを通して、在日外国人教会と日本人教会との宣教協力がより活性化していくことを願っています。このような宣教協力は、日本社会にも大きなインパクトを与えることになると思います。



神学教育機関の使命は、次世代の宣教を担う働き人の育成にあります。宣教のトーチの炎は消えることなく、現在に至るまで受け渡されてきました。現在学んでいる学生たちが、次の世代のトーチの担い手です。TCUはこの使命をこれからも大切にしていきたいと思っています。そして、TCUで学んだ学生たちが、「Stand in the Gap 破れ口にキリストの平和を」を実践し、「キリストがすべて」というTCUのモットーを地域社会であらわしてくれたらと願っています。TCUの教育の力を卒業生たちが証明してくれると信じています。

Stand in the Gap





From the Rising of the Sun, and from the West

総合神学科 2 年次編入 Matthew Fernandez (Country of Origin: USA)

I have begun studying at TCU to gain experience as a Christian within the Japanese context. Since I desire to be a minister in Japan, I'd like to take advantage of the opportunities presented at this school. I want to be able to understand the Japanese language, culture, and society to better prepare myself for the Gospel ministry in Japan. I hope to make many new friends, explore Japan, network with other Christians in the area, and see the work of the Holy Spirit. Part of the reason I specifically decided to come to TCU was to improve my Japanese ability and learn Christian vocabulary in Japanese so that I can be equipped to teach and preach more efficiently. I'm praying that I can be an encouragement to the Christian community in Japan, and that I can serve wherever I will be the most helpful. Learning theology alongside Japanese students and other internationals who have a shared burden for the church in Japan is an exciting prospect, and I pray the Lord guides me along a path that will glorify Him most!

"He shall have dominion also from sea to sea, and from the river unto the ends of the earth." Psalm 72:8

日出づる国、そして西の国から

私は日本で牧師になりたいと願っています。日本での福音宣教のために、日本語、文化、社会を理解できるようになりたいです。TCUに来ることを決めた理由の一つは、日本語力の向上と、日本語のキリスト教表現を学ぶことで、教えたり説教したりできるようになるためです。日本人の学生や、日本宣教を志す留学生と共に神学を学ぶことは、とてもエキサイティングなことです。主が私をふさわしく導いてくださるよう祈っています！ 詩篇 72:8

Looking forward

総合神学科 1 年 Sharon R. Anil (Country of Origin: India)

One specific reason which gravitated me to TCU was the idea of how people from different denominations co-exist in harmony. What I expect out of TCU is to get to know people from diverse backgrounds and faith walks and perceive a new approach to Christian living. I enjoy indulging in the various customs and Japanese ways of life. I am certain that were I to be called to another nation for missions and be required to adopt the traditions and values whilst accustoming myself to a whole different family of believers, I believe I could do it without any difficulty thanks to my training here in Japan and at TCU. I strongly feel that this university will enable me to discern and engage in the right way of life, while equipping me to passionately obey the voice of God and pursue His call for my life. Most importantly, I hope to be better prepared and be thorough in response to the Great Commission and find ways to serve God and His people particularly through the church practicum. Every day, I look forward to seeing what God has in store for me here at TCU and in Japan.

主に期待して

私はTCUの超教派で学ぶという環境に惹かれました。多様な学生たちと自分の歩みが整えられていくことを期待しています。異なる文化や日本の生活習慣にふれることは、卒業後どこに遣わされたとしても生かされる経験となるでしょう。

TCUで、自分の召しは何か、どのような歩みをするべきかを考え、教会実習などを通して神と人ともに仕えることを学びたいと願っています。

ここTCUで、そして日本で、神様が私に何を与えてくださるのか、毎日が楽しみです。



Short-term
International Student



My Time at TCU : Short but Sweet

The East Asia Institute (短期留学生) Sophie Hare
(Country of Origin: United States)

I knew TCU would be small but I wasn't prepared for how small. My university back in Oregon is "small" with roughly 2,000+ students so hearing that TCU has roughly 160 was a shock. That being said, I adore being at TCU! The size, the staff, the community. I have never felt so loved outside of my own home. I have people I have hardly met asking me if I'm alright when I'm sick, my RA brought me a popsicle when I missed Ice Walk, and everyone treats me like a friend even if we've barely interacted. TCU might be small but it has a very big heart. My time here is regrettably short as an EAI and I desperately wish my university would allow me to stay longer. TCU has taught me so much in my short time here, it's taught me to be independent in ways I didn't know I could be. I am so grateful to God for this opportunity to explore not only my faith at TCU but the ability to explore Japan. Inzai, Tokyo, Osaka, Kyoto. These places will hold a very special place in my heart and I will always remember fondly my time here at TCU.

短いけれど美しいTCUの生活

オレゴンにある私の大学は学生数2000人以上とアメリカでは小さい大学ですが、TCUは160人ぐらいと聞いて衝撃を受けました。しかし私はTCUが大好きです! みんなが友達のようにとても親切に接してくれます。TCUは小さいかもしれませんが、とても大きな心を持っています。短い留学期間ですが、TCUで自分の信仰だけでなく、日本についても深く知る機会を持てたことを神さまに感謝します。TCUで過ごした時間をいつも懐かしく思い出すに違いありません。

留学生に寄り添うResident Assistant(RA)

今年度も英語トラック秋入学学生5名、短期留学生7名が新たにTCUに加わりました。彼らの日本での学びと生活に欠かせないのが、学生によるResident Assistant (RA) の働きです。

RAの役割は、留学生の学生生活全般に関する相談窓口となり、適切な助言と支援を行うこと、そして、留学生と日本人学生の懸け橋の核となり、キリストの一つのからだとしての共同体の形成を促すファシリテーターとなることです。TCUでの生活や日本の習慣など、慣れないことの多い中で大変頼れる存在です。

寮生活では、寮運営委員会と協力して身の回りのこと、健康、教会のことなど生活全般にわたって困りごとに対応します。また、RAではない他の学生との間をつなぐということも大切な役割の一つです。

その他、Zoomでの入学前教育オリエンテーション、来日時に羽田空港・成田空港での出迎え、キャンパスツアー、買い物、食堂で一緒に食事をする、一緒に教会に行く、銀行口座開設のサポートなどその仕事は多岐にわたります。

また、フィールドトリップとして、浅草での茶道体験や東京国立博物館にも同行しました。

RAの活動は、留学生にとってはもちろんのこと、迎える学生たちにとっても英語力の向上、異文化理解の涵養など大きな成長の機会となります。



能登半島地震ボランティア



神のことばの力 トラウマケアキャンプを通してー

総合神学科 教会教職専攻4年 林 清香

今年の夏、富山県の富山トリニティチャーチで行われたオペレーションセーフプログラムにTCUから14人の学生が参加しました。このプログラムは能登半島地震で被災した子どものトラウマケアを目的にした5日間のキャンプです。毎日御言葉をモーション付きで覚えながら、ダンスをし、6つのステーションと呼ばれるブースに子どもたちが電車になって回って体験していくというものでした。

笑顔の無かった子が段々と笑顔になり思いっきり楽しむようになったり、皆大きな声で楽しそうに御言葉を覚えたり、ぼろぼろと「地震が怖かった」と心を打ち明けてくれる子がいたり、少しずつ変わっていく子どもたちの様子を間近で見ることができました。何よりも御言葉や賛美を心から喜んで体験し、目を輝かせている子どもたちが印象的で、神さまの恵みを実感することができました。

皆様の尊い献金によってすべての必要が満たされて、トリニティチャーチにも献金を献げることができ、安心して奉仕を全うすることができたことを心から感謝いたします。この働きを覚えてくださった皆様に祝福がありますように。



夏期伝道報告



夏期伝道旅行感謝報告

夏期伝道旅行実行委員会 委員長

大学院修士課程 教会教職コース1年 金子 共督

主の御名を賛美いたします。

今年度の夏期伝道旅行は7月6日から15日の10日間行われ、日本各地の10教会に派遣チームを受け入れていただき、派遣メンバー65名、祈りのメンバー23名、総勢88名が参加しました。「いのちのことば者〜光とされて〜」をテーマに、いのちのことばを握る者として、日本各地でキリストの光を受けて御言葉を宣べ伝える10日間を主の守りと導きの中で実施することができました。

10の教会に派遣されたメンバーはそれぞれトラクト配布、子ども向けイベントの開催、証、奏楽、説教などの奉仕を行い、祈りのメンバーはそれを祈りをもって支えました。夏期伝道旅行チームを受け入れてくださった教会、そして多くの方々の尊いご加祷、献金によるご支援によって今年度も無事に夏期伝道旅行の働きを終えることができました。

夏期伝道旅行に関わってくださるすべての方々に心より感謝申し上げます。すべてを導いてくださる主に栄光をお帰ししつつ。



インターシップ報告



韓国における日本宣教の現場で

大学院修士課程 教会教職コース1年 新佐枝 知子

2024年7月、韓国のソウルにあるオンズリ教会日本語礼拝部に、4週間のインターシップへ行きました。自分の母教会の本部、教団のルーツを知り、さまざまなミニストリーに参加させていただきながら、運営方法などを学びたいと思ったからです。

インターシップでは、日本語礼拝部で行われる礼拝や祈祷会、サマーキャンプやセミナー、そして韓国語教室など、プログラムのほぼすべてに参加させていただきました。特に毎週行われる教職者会議に陪席できたことは、牧会に関わる中心的な働きと祈りの中に加えていただいた貴重な時間でした。また長老、執事、教会スタッフはじめ教会員の方々が教職者を支え、またキャンプに参加した子供たちに本気で仕える姿に感動しました。韓国という地で日本宣教のために祈り、さまざまな形で仕える姿に励ましを受けました。

不思議とどの奉仕も私にとって初めて経験するものばかりでしたが、神様が訓練の場として与え、多くの出会いと交わりを祝福してくださったことを感謝します。そして私のような神学生を快く受け入れてくださった教会の皆さんに心から感謝いたします。



インターシップ報告



聖書的価値観をもって向き合う

総合神学科 キリスト教福祉専攻4年 福田 友耶

夏期休暇中、和歌山県にあるNPO法人 白浜レスキューネットワークでインターンを行いました。TCU卒業生であり同法人理事長の藤藪庸一先生著『あなたを諦めない』を読み、自殺志願者の自立支援、子ども支援などの働きをする同団体を知り、その働きに興味を持ちました。

二週間という短い期間、最初の一週間は子ども支援「コベルくん」での活動、そして二週目は夏のキャンプのスタッフとして活動しました。白浜の豊かな自然の中で、多くのノンクリスチャンの子どもたちと過ごしました。その中で印象的だったのは、藤藪先生やスタッフの方々の彼らへの関わり方や神さまの存在や愛を伝える姿勢でした。

また、自殺志願者であったけれど白浜レスキューネットワークに救われ、「まかないキッチン」というお弁当屋で働かれている方々とも少しの時間でしたが関わることができました。今回の実習を通し、聖書的価値観をもって目の前の人と接する覚悟が必要であると学びました。



夏期卒業礼拝報告 *Report 1*

英語トラック生6名が卒業し、次のステップへと踏み出しました。

7月5日に夏期卒業礼拝が行われ、英語トラック生6名が卒業しました。卒業後は日本または母国での就職や進学に歩み出していきました。卒業生代表としてJason Tyler Prattさんは「TCUのコミュニティは特別です。TCU生活の成功と失敗はコミュニティにかかっています。夏期伝道やスプリングリトリートによってコミュニティが一つになった時は最高でした。コロナ禍による制限が少しずつなくなっていった時の喜びは計り知れないものでした。苦しい時に私たちを支えてくれたのはコミュニティでした。素晴らしいコミュニティを与えてくださった神さまに感謝します」と語りました。2001年にACTS-ES (Asian Christian Theological Studies for English Speakers) という名称で、英語で授業を受け学位を取得するコースがスタートし、今年の卒業生で20期生となりました。



あのTCU卒業生はいま？ チャンネル紹介 *Report 2*

TCUの新しい動画チャンネル「あのTCU卒業生はいま？」が6月からスタートしました。このチャンネルは、「献身者は牧師だけじゃない!」というコンセプトで、9期生の丸山告さんがTCUの卒業生に会いに行くという企画です。TCUがこれまでに送り出した卒業生は1,200人を超え、教育、福祉、企業、宣教団体、教会、家庭、地域などさまざまな分野で働いています。そんな卒業生たちの現在の姿をお伝えしています。TCUでの思い出を振り返ったり、失敗談や苦い思い出を語ったり、今の仕事のやりがいやビジョンを語ったりと、カジュアルな雰囲気等で身大の姿を見ることができます。月に1~2回の頻度で更新していますので、ぜひチャンネル登録してご覧ください。

https://www.youtube.com/@tcu_alumni_now



YMCA 合同就職説明会開催 *Report 3*

10月28日に茨城、千葉、東京、横浜、とちぎ、埼玉の6都県のYMCAによる合同就職説明会がTCUを会場に行われました。現在、全国のYMCAで児童クラブの展開を進めており、すでに1万5千人の児童を預かるまでに広がっています。そこで、キリスト教保育ができるクリスチャン人材獲得が急務であるため、この度、本学キャリア支援室との連携により6地区のYMCAによる就職説明会が実現しました。

〈夏にキャリアインターンシップを行った学生の声〉

国際キリスト教学専攻4年 和田 幸美

私は7月18日~31日の2週間、茨城YMCAみどりのみらいセンター児童クラブでインターンを行いました。私は子どもの「見守り」として、危機対応、トラブルの解決、子ども達と全力で遊び友情を築くことをめざしました。インターンを通じて、子ども達と一人の人間同士として真剣に関わることの大切さを学びました。今後は保育士免許取得をめざし、子どもに関わる道に進みたいと思います。



シオン祭報告「Good News」 *Report 4*

シオン祭実行委員会 委員長
総合神学科3年 中西 聖実

先日のシオン祭は青空の下、1000人以上の来場者で賑わいました！今年は特に「地域伝道」に力を入れ、地域の中学校の吹奏楽部や地域密着型フォトグラファーを招き、沢山の地域のノンクリスチャンの方々にも来ていただきました！

今年のテーマ聖句はヨハネの福音書4章14節を選び、リーダーズの、「渇くことのない湧き上がる水を与えてくださる神様を伝えたい！」という思いから、Good Newsをテーマにしました。

私は地元の友達に会った時、神様のことを知ってほしくて、でも勇気がなくて伝えられず、涙が止まらないことがありました。シオン祭の準備をする時、私は神様をまだ知らない友達や親戚のこと、地域の人たちの救いを祈りながら準備をしました。

シオン祭は種蒔きのようなもので、どのくらいの人に福音が届けられたのかわかりません。でも必ず神様がこのシオン祭を用いてくださったこと、福音が届けられたことを私は信じています！



2024年度教職員人事・理事紹介

2024年度8月1日時点での教職員人事と理事・監事を紹介します。

【教職員人事】

学長	篠原 基章
副学長・神学部長	岩田 三枝子
総合神学科長	岩田 三枝子
大学院研究科委員長	岡村 直樹
グローバルコーディネーター	デイビッド・サイツマ
事務局長	小町 継太
総務部長	高橋 信希
教務部長	齋藤 五十三
学生部長	森 恵子
企画広報部長	森田 哲也

【理事・監事】

理事長	廣橋 信一
理事	篠原 基章、岡村 直樹、小町 継太、吉持 日輪生（以上、常任理事）、大竹 護、フィリップ・フォックスウェル、丸山 園子、菊池 良一、塩見 知司、藤田 敦、山口 陽一
監事	佐藤 聡、長橋 和彦、古畑 和彦

神の子とする恵み

— 宗教改革信条史における「神の子」概念再考 —

(教文館 2024年1月)

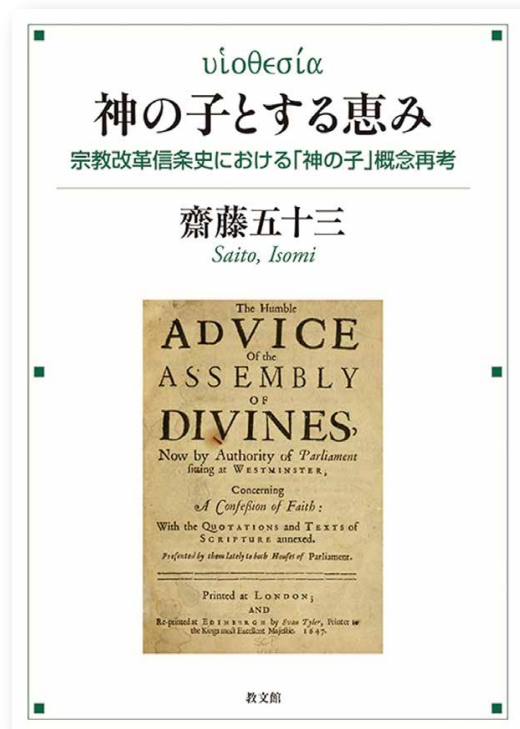
教授・教務部長 齋藤 五十三

使徒パウロが福音の核心を語ったガラテヤ書中の4章5節に、神の御子がどうして人となられたのかを記す御言葉があります。「それは…私たちが子としての身分を受けるためでした」。このように、キリストを信じる者が「神の子」となるということは、福音の核心となるメッセージです。

残念なことに、信じる者を「神の子」とする恵みの教えが、神学史においては長らく見過ごしにされてきた、と言われます。それは、宗教改革期を代表する教理の「義認」(=罪びとが、キリストを通して「義」と認められる恵み)を確立することに神学者たちが多くの時間を費やさざるを得なかったためであると一般的には説明されています。

確かに歴史を紐解けば、改革者カルヴァンなどの一部例外を除いては、「神の子」とする恵みは注目を受けてきたとは言えず、見過ごしにされてきたというのが研究者の間での通説です。しかしながら、そうした通説を覆そうとする小さな研究が、この度、本書を通して読み頂けるようになりました。

この研究に当たって筆者は一つの仮説を立てました。それは、「神の子」とする恵みは神学史全体においては見過ごしにされてきたものの、十六、十七世紀のプロテスタント初期には、基本教理の一つ



として認識されていたというものです。

本書は、そのようにしてプロテスタント初期の信仰告白文書を丹念に調べながら、罪びとが神との親子関係の中に迎えられ、神の家族の中で成長していく、神の子どもの「信仰の旅路」を解き明かしていきます。宗教改革期を代表する「義認」は、キリストによって罪が赦される福音の「法的側面」を明らかにしますが、「神の子」とする恵みは、赦された者が神を父とする「神の家族」に迎えられ、交わりの中で育まれていくという福音の「家族的・人格的側面」を明らかにします。家庭崩壊等、家族の危機が叫ばれる時代に、福音の「家族的・人格的側面」は、心に傷を抱えて生きる多くの人々にとって慰めの使信となるものです。

本書の内容は、東京基督教大学における学部講義の「組織神学」だけでなく、そのエッセンスがあらゆる講義の中に生かされており、福音の揺るがない慰めを学生たちに伝えています。

Profile



齋藤 五十三

教授・教務部長。
東京基督神学校卒、カルヴィン神学校 (Th.M)、アムステルダム自由大学 (Ph.D)。
日本同盟基督教団新船橋キリスト教会協力牧師。
亀田キリスト教会牧師、台湾派遣宣教師を歴任。

寄付金のお願い

いつもTCUをお支えて下さりありがとうございます。

現在、TCUは2027年度までの3年間、財政健全化に集中して取り組んでおります。

これまで「夏期特別献金」「クリスマス特別献金」「状況に合わせて随時」などさまざまな形でささげて下さっていますことは、TCUにとっては大きな支えです。しかし、毎月定期的に一定額をささげて下さる方法は学園の財政の安定と将来への見通しをもたらす効果的なご支援となります。そのために、ぜひとも毎月定額でのご寄付にご協力をお願い申し上げます。毎月定期的に一定額をささげて下さる方法は学園の財政の安定と将来への見通しをもたらす効果的なご支援となります。すでにささげて下さっている方には、継続とともに増額もご検討いただけましたら幸いです

ルターの恩恵論と「十字架の神学」

— マルティン・ルターの神学的挑戦 —

(教文館 2024年5月)

准教授・共立基督教研究所 所長 須藤 英幸

本書は、専門家によるこれまでのルター研究を踏まえつつ、ルターの信仰義認と「十字架の神学」について論じた研究書です。日本で出版されたルターの関連図書を大別するとデポジション的な図書と専門的な研究書に分かれますが、両者の間にはかなりの乖離がありました。本書の試みは、ルター研究の専門的水準を保ちつつ、信仰に立脚した研究によってこの深い溝に橋を架けることです。そうすることで、プロテスタント神学の真の源流に辿り着くことが期待されます。

本書の具体的な目的は、ルター神学の研究において解決されていない二つの問題を明らかにすることです。一つ目は、ルターの神学的突破の時期、すなわち、信仰義認がいつ確立したのかという問いです。二つ目は、ルターの「十字架の神学」とは何であるのかという問いです。前半では、ルターが生きた中世末期の神学的状況が整理された後、ルターの信仰義認が修道院の伝統であるベルナルドゥスの結婚神秘主義を前提にしつつも、実質的にはアウグスティヌスの恩恵論の影響によるものだと結論づけます。後半では、ルターの「十字架の神学」をルターによってドイツ神秘主義の否定神学が批判的に受容されたものだと評価します。さらに『ハイデルベルク討論』で本格的に論じられる「十字架の神学」の特徴を描きだして、最後にそれが後期ルターによっても否定され



ないことを確認します。

ルターの「十字架の神学」は、信仰義認と共にルター全体の信仰義認論が構成される一要素として重要です。ルターによれば、罪が赦されたキリスト者であっても現実的には罪人なるがゆえに、その自己中心性から自己の栄光を求めてしまう傾向にあります。「十字架の神学」は「栄光の神学」の絶対的とも言える否定であり、それが神の恩恵によって信仰義認を受けたキリスト者の生き方を規定します。「十字架の神学」によれば、キリスト者には「無なる者、愚か者、害ある者」としての自己理解に透徹しつつ、神の働きに参与することが求められます。なぜなら、神の国は少なからず自己の栄光(自己の欲望)と対立するものであり、したがって、「十字架の神学」に立つときにはのみ、真の意味で神の前にも立つことができるようになり、それゆえ、神の国をそのものとして純真に求めることが可能になるからです。

本書で論じられる研究内容は、東京基督教大学において学部講義の「歴史神学」や大学院講義の「宗教改革史」などで取り上げられます。

Profile



須藤 英幸

准教授・共立基督教研究所 所長。フラー神学校神学修士(MA in Theology)、京都大学大学院修士(キリスト教学)・博士(文学)。専門はアウグスティヌス、ルター、聖書解釈学。

■寄付の方法

- W E B 献 金 : 手続きが簡単で、金額変更も随時可能です。
- ゆうちょ口座から引落 : 郵便局に備え付けの必要書類にて、お手続き願います。
- 毎 月 送 金 : 払込書を用いて、郵便局または銀行から毎月送金願います。

■振込先

- 口 座 名 : 学校法人東京キリスト教学園 明日の世界宣教者育成募金
- 銀行口座 : 千葉興業銀行 千葉ニュータウン支店 普通 1737541
- 郵便振替 : 00110-5-575648

■WEB献金ページ



Entrance Examination Information

入試情報

■神学部春期入学・編入学

総合型選抜

第3回

出願期間：2025年 2月 3日(月)～2月20日(木)必着

試験期日：2025年 3月 1日(土)

一般選抜

第Ⅰ期

出願期間：2025年 1月 6日(月)～1月20日(月)必着

試験期日：2025年 2月 1日(土)

第Ⅱ期

出願期間：2025年 2月21日(金)～3月 7日(金)必着

試験期日：2025年 3月13日(木)

■神学部秋期入学・編入学

Fall Regular Admission (海外・国内在住対象)

出願期間：2024年11月1日(金)～2025年1月31日(金)

書類選考・ビデオ対面面接：2025年2月～3月

Fall Late Admission I (海外・国内在住者対象)

出願期間：2025年 2月1日(土)～4月7日(月)

書類選考・ビデオ対面面接：2025年 4月8日(火)～5月2日(金)

Fall Late Admission II (国内在住者対象)

出願期間：2025年 4月8日(火)～6月13日(金)

書類選考・ビデオ対面面接：2025年 6月16日(月)～6月27日(金)

■大学院神学研究科

修士課程 一般(第二期)

出願期間：2025年 1月 6日(月)～1月14日(火)

試験期日：2025年 1月24日(金)or1月25日(土)

出願者数に応じていずれかに実施

※博士課程は出願期間が終了しました。

資料請求は
QRコードから



お問い合わせ

アドミッションセンター
TEL 0476-46-1131
E-mail nyushika@tci.ac.jp

Open Campus

2025年度オープンキャンパス日程

オープンキャンパス2025

「つながる。聖書・世界・私。」

4月25日(金)～26日(土)

ー泊型オープンキャンパス

6月14日(土)

オープンキャンパス

7月26日(土)

オープンキャンパス

8月23日(土)

オープンキャンパス

参加特典

定期的に教会に通う30歳未満の方で、当日の全プログラムに参加した方には交通費の補助を差し上げます。詳細はウェブサイトにて順次公開します。

お申し込みは
QRコードから



お問い合わせ

オープンキャンパス担当
TEL 0476-46-1131
E-mail nyushika@tci.ac.jp

春期卒業礼拝

下記の通り卒業礼拝を執り行います。

お問い合わせ

日時：2025年3月7日(金) 13:30～15:00 総務部

場所：本学チャペル

TEL.0476-46-1131



TCU | 東京基督教大学
TOKYO CHRISTIAN UNIVERSITY

発行人：学長 篠原 基章 編集：東京基督教大学

〒270-1347 千葉県印西市内野三丁目301番5

TEL : 0476-46-1131 | FAX : 0476-46-1405 | URL : www.tci.ac.jp

